受付番号	2024-42		
許可番号	大歯医倫　第 111375 号		
研究課題名	欠損歯列患者の各種食品に対する咀嚼行動調整		
研究責任者	川本　章代	申　請　者	高橋　信道
研究終了日	2027 年 3 月 31 日		
所　　属	高齢者歯科学講座	所　　属	歯学研究科（高齢者歯科学専攻）
職　　名	准教授	職　　名	大学院 2 年生

申請の概要

超高齢社会に入り、生涯にわたる健全な咀嚼機能の維持の重要性がますます認識されている。歯科医療においては、小児を対象とした口腔機能発達不全症並びに高齢者を対象とした口腔機能低下症が近年保険収載されたが、それらの病態においても咀嚼機能の発達不全/低下が重視されている。咀嚼機能の評価・診断においては、「硬いものが噛めるか」という問診によるスクリーニングや検査用食品を用いた咀嚼能力検査が用いられている。一方で、実際の食事や間食において、嚥下できる食塊を形成するまでの咀嚼回数や咀嚼時間などの「咀嚼行動」については評価の対象ではない。しかし、不適切な咀嚼行動による誤嚥は致命的な気道閉塞を生じることがあり、消費者庁の統計によれば年間 4000 名以上の死亡者を出していることが問題視されている。

これまで、咀嚼能力が低下した場合は咀嚼回数や時間を増やすことによって代償していると考えられてきたが、地域高齢者を対象とした研究では、客観的に測定した咀嚼能力と咀嚼回数との間には相関関係が認められなかった。そこには口腔機能だけでなく、個人の習慣や嗜好などの多因子が関与していると考えられるがその詳細はまだ検討されていない。そこで本研究では、健常有歯顎者ならびに欠損歯列患者がさまざまな噛みごたえの食品を摂取する際の咀嚼行動を耳掛け式咀嚼回数計で測定し、異なる食品に対する咀嚼行動調整の容態を明らかにする。また、咀嚼行動と歯列の欠損状態並びに口腔機能との関連性について分析する。さらに、健常有歯顎者における咀嚼時筋活動と咀嚼行動パラメータとの関連について分析する。これらの結果より、欠損歯列患者に対する補綴治療や口腔機能管理における咀嚼行動指導の資料を得ることができると期待される。